

日刊 LPG・LPガス・LPガス情報

日刊／土曜・日曜・祝日休刊 購読料／6ヵ月40,338円(本体37,350円)・1年80,676円(本体74,700円)

LPG DAILY NEWS

2025年(令和7年)8月7日 木曜日 第15849号

編集発行／(株)石油化学新聞社 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目4-10 (小田急神田岩本町ビル) TEL03(5833)8840 FAX03(5833)8841
大阪支社／TEL06(6231)8036 FAX06(6231)8039 札幌支局／TEL011(726)8908 FAX011(726)8909 仙台支局／TEL022(227)0685 FAX022(224)7485
名古屋支局／TEL052(566)2290 FAX052(566)2291 広島支局／TEL082(227)4501 FAX082(228)2373 福岡支局／TEL092(285)2801 FAX092(285)2802

URL: <https://www.sekiyukagaku.co.jp>

ニュースハイライト

- ◆古河電工がW L G A加入、グリーン化技術で関係構築 3
- ◆ニチガス第1四半期は営業利益75%増、販管費減少で 3
- ◆アサノ会が青年部新設、「革新と改革」掲げ発展誓う 4
- ◆マルキ会東北、省エネ補助金活用へ事業提案会開催 5
- ◆井田スクエア、E Gのガス漏れ対応V Rを体験 6
- ◆エネサンス北海道、H F Lオールスター戦に協賛 6
- ◆岩谷産業、大阪・関西万博で鳥人間コンの歩み紹介 7
- ◆J商エレ、低コストな表面温度監視システム提案 8

人 事

- ★ENEOSグローブ(1日) 8

今日の焦点

- 岩井商店、水回りリフォームを新たな柱に
奈良市内最大級のS R開設、年商3億円目標へ事業拡大 9

社告／「L Pガス・ビジネス・マッチングイベント」のご案内 10

N i X J A P A N、インドネシアでL Pガス事業急伸 卸先は予想の1.5倍に拡大 首都ジャカルタ近郊に充填所新設

建設コンサルタントのN i X J A P A N (本社・東京、市森友明社長)を基幹とするN i X J A P A Nグループが、インドネシアで1年前に開始したL Pガス充填販売事業が拡大している。ディストリビューター(卸事業者)や直販先が順調に増え、販売量が右肩上がりに増加。充填工場をスラバヤに加え、首都



ディストリビューターの会合で意見を聞き、システムを改善する

Brain Genesys

ガスエネルギー事業統合情報システム

Super X03

「新時代のサービス」を 株式会社ブレインジェネシス
提供する次のステージへ! <https://www.braingenesis.co.jp/>

家庭用 超音波式ガスメーター

リニューアル!!

型式
EA25MT-3
EA4MT-3

詳しくはこちら!



NEW 端子台

端子台が広くなり、ケーブル線の接続がラクに
外部端子1(第2警報器)、外部端子2(調整器)
の併用が可能に

2.5号/4号

愛知時計電機株式会社

5月より
切替

ジャカルタ近郊に新設した。同国内では国営企業プルタミナを除く民間ガス供給会社として、既に第3位の規模に成長した。芳尾航取締役執行役員エネルギー・海外事業本部本部長は、スマートメーターなど日本の技術の導入や、LPガス事業者との連携を視野に入れていると述べた。

同グループはこれまで、インドネシアで水力や太陽光発電、電動バイクなどのエネルギー事業を展開。屋根置き太陽光発電事業は同国でトップ5に入る事業規模に成長した。電動バイクの販売・レンタル事業は、バイクタクシーやデリバリーが普及している同国で、コストが抑えられると配車サービス企業の評価を受け、売り上げを伸ばしている。LPガス充填販売は同国での投資事業の第1号案件として、国営企業以外では数少ないLPガスプラントを保有し運営する現地企業アルシナジー・リソーシズ（ARSR）と共同でJV企業アルシナジーNIXインドネシア（ANI）を設立。ジャワ島東部スラバヤのグレシック工業団地でLPガス充填工場を建設し、2024年4月からディストリビューター向けの販売を開始した。

販売開始から1年余りでディストリビューターは当初想定の20者から35者程度に増加。ホテル、レストラン、カフェ、病院などへの直販も行っている。レストランなどが多い観光地のバリ島にも進出した。また、首都圏の大きな需要に効率的に応えるため、ジャカルタ近郊のマルンダ工業団地に充填工場を新設した。最初の充填工場があるスラバヤとジャカルタは780km以上離れており、長距離輸送が課題だった。

成功の要因には、コンセプトに掲げる「正確」を挙げる。容器に正確な量のLPガスを充填し、スケジュール通りに配送することで既存の事業者と差別化。容器にRFIDタグを取り付け、在庫管理や残量予測を容易にした。容器は需要家に配達するときと交換後に計量し、需要家は使用した分の料金を支払う仕組み。残ガスに応じたポイントを付与する「Gas Back」サービスも提供し、需要家は次回の購入時にポイントを利用して料金を割り引くことができる。アプリを活用した利便性の高さも特徴。ディストリビューターからの注文や配送などはアプリで簡単に行える。ディストリビューターの会合を開き、意見を聞いてシステムに反映させるなど改善にも余念がない。

コンセプトや取り組みが市場に受け入れられ、単月での黒字化を果たし、平均毎月20%程度ずつ売り上げが増えている。事業開始時の目標、年間売上高20億円も達成できる見込みだ。さらに、販売チャネルを構築できたことで、水や飲料など新たな商材とのクロスセルの可能性も出てきた。

芳尾氏は今後、スマートメーターなどインドネシアでは入手できない機材の導入に、日本のメーカーなどと連携する考えを示した。将来的には供給キャパシティ以上に増加した際の需要に対応するため、L P ガス輸入プラントを建設する構想も描く。「それには、プラント建設やオペレーションのノウハウを持つ企業との連携が不可欠。当社は連携企業と一緒に事業を伸ばそうというスタンス。日本のL P ガス事業者の現地での事業活動をサポートしつつ、ともに成長していきたい」と展望した。

◆古河電工がW L G A加入、グリーン化技術で関係構築

世界リキッドガス協会（W L G A）は7月28日、古河電気工業（本社・東京、森平英也社長）を新会員として迎え入れたことを明らかにした。古河電工は「W L G Aへの加入を糸口に、新たな有益なパートナーシップを築いていきたい」とのメッセージをW L G Aのホームページに寄せている。

古河電工はカーボンニュートラルの実現を目指し、独自開発した「ラムネ触媒」により家畜の糞尿から得られるメタンやC O₂をL P ガスに変換するグリーンL P ガスの創出に取り組んでいる。W L G Aは同社の取り組みをH Pで紹介し、同社のW L G Aへの加入を歓迎している。古河電工は「今後も技術開発を進め、再生可能L P ガスの実用化に貢献していく。再生可能L P ガスの実用化と普及を実現するには、技術開発や市場拡大のみならず、インフラの整備など、さまざまな課題への対応が不可欠だ。しかし、古河電工はL P ガスの供給事業者ではなく、L P ガスに関する十分な知見がない。W L G Aに参加するすべてのメンバーとの共創を通じて知見のギャップを埋め、L P ガス市場のC Nに貢献することを目指す」とW L G AのH Pで表明している。

◆ニチガス第1四半期は営業利益75%増、販管費減少で

ニチガス（本社・東京、柏谷邦彦社長）が7月29日発表した2026年3月期第1四半期連結決算は営業利益が36億5,500万円と前年同期比75%増となった。売上高は458億5,900万円と同2.8%の増加だったが、顧客獲得費が大きく減少した。

期中の販管費は計画比9億円減。うち4億円は、I T費用やガス関連機材などの計上時期が第2四半期以降にずれ込む影響。残り5億円のうち、顧客獲得比の